

浸水被害低減効果一覧

令和7年9月13日 大雨警報（浸水害）

下水道施設名	行政区	排水方式	施設容量 (m³)	貯留量 (m³)	貯留率 (%)
② 小机千若雨水幹線	緑、神奈川	ポンプ排水	256,000	41,609	16%
③ 新羽調整池	港北	ポンプ排水	89,000	1,000	1%
⑥ 蒔田雨水調整池	南		22,000	370	2%
⑦ 江川雨水調整池	都筑		17,000	5,260	31%
⑧ たちはなの丘雨水調整池	旭		7,000	1,210	17%
⑨ 金井雨水調整池	栄		6,000	980	16%
⑩ 長津田地区東雨水調整池	緑		54,000	12,200	23%
⑪ 長津田地区西雨水調整池	緑		19,000	2,590	14%
⑫ 相沢雨水調整池	瀬谷		56,000	7,030	13%
⑬ 北綱島第二雨水幹線	港北		72,000	4,220	6%
⑭ 獅子ヶ谷雨水幹線	鶴見		6,500	20	0.3%
⑮ 戸部雨水幹線	西		11,000	11,000	100%
⑯ 初音雨水幹線	南		7,500	10	0.1%
⑯ 下倉田第二幹線	戸塚		8,200	135	2%
合 計			631,200	87,634	—

25mプールで換算 : **234** 杯分を貯留

※25mプール容量イメージ：幅15m×深さ1m×長さ25m=375m³

- ポンプ排水方式の下水道施設については、最下流のポンプ施設による吐出量を集計した値を記載しています。
また、ポンプ排水を行なながら貯留しているため、貯留容量を超える値になる場合があります。
ポンプ排水方式の河川施設については、対象期間内に排水作業を実施し、複数回貯留した場合は、行を分けて記載します。
- その他の排水方式については、ピーク水位の計測結果から算出した貯留量を記載しています。
※上記1、2の算出方法による値のため、浸水被害低減量は参考値です。
- 貯留実績があった施設のみ貯留量を記載しています。